

おおくらだより



令和5年12月18日

(文責) 北九州市立大蔵小学校

校長 増田 知夏子

【学校教育目標】

「心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた自主的で実行力のある児童」の育成

ICT 教育とは

社会のデジタル化が進む中、教育現場でも先端技術の効果的な活用が求められています。そこで急速に進められているのが ICT 教育です。教室では、タブレット端末を使ってインターネットで調べ学習をしたり、パワーポイントで作った資料を一瞬で学級全員の端末に共有することができたりします。これまでのアナログ学習から効率的な学習へと変化しています。

タブレット端末を活用した宿題について

今年度は、インターネット環境に関係なく取り組むことができるよう、「スマイルネクスト」というドリルアプリを導入しています。宿題に出すときには、担任があらかじめ指定した問題を学校でダウンロードします。次の日の登校後、取り組んだ問題をアップロードすることで、担任がその実施状況や正答を確認することができます。学年によって違いがありますが、3年生以上で週に1～3回程度、タブレット端末での学習を宿題にしています。タブレット端末での学習には、次のようなメリットがあると考えています。

① その場で正答が分かる。

正しい答えがすぐに分かるので、力が付きます。また、担任は即時に正答率を把握し、すぐに指導することができます。

② ヒントを表示できる。

答えに悩んだとき、ヒントを表示することができます。ヒントを基に、答えを出すことができます。

③ 取り組んだ時間が表示され、集中できる。

「〇分で解けるようにがんばる。」などめあてをもって取り組む力が付きます。

一方で、小学生にとって「書く」ことはとても大切です。宿題は、タブレット端末だけでなく、漢字練習帳やプリントも併せて出すようにしています。まだタブレットの扱いに不慣れだったり、タブレット端末が思うように動作せず、取り組み辛かったりすることもあると思います。そのような場合は、次の登校日に担任に事情を話してくれば大丈夫です。学校としても、今年度からの取組みのため、行き届かない所が多いかと思えます。「どのようにすれば子供たちの力になるか。」ということをいちばんに考え、タブレット端末の活用について今後も工夫・改善していきたいと考えています。